



ご挨拶

祝 筑紫高校ラグビー部 創部50周年

福岡県立筑紫高校ラグビー部OB・OG会
会長 吉開 敏

昭和49年、今村哲之監督のもとに集いし我々の先輩たちが、筑紫高校ラグビー部を結成し、城戸、西村、中村、長木監督のもと、楕円球の魅力にとりつかれた我々の仲間が常に全力でつないできた『筑紫ラグビー』、令和6年、創部50周年を迎えます。

まずは、創部以来『筑紫ラグビー』の活動を支えていただきました歴代の顧問の先生方、さらには、学校関係者の皆様方へ厚く感謝申し上げるとともに、常に側面からサポートいただきました保護者の皆様に御礼申し上げます。

今、創部50周年を迎えるにあたり、それぞれの時代の『筑紫ラグビー』を語り合うことには、これからの『筑紫ラグビー』の仲間たちへと思いを繋いでゆくためにも非常に有意義なことと考え、我々の情熱が100周年に繋がってゆくことを切望し、歴代の顧問の先生方、各期代表の皆様の『筑紫ラグビー』を語っていただきました。

寄稿文の執筆、資料の提供、および多大のご芳志をいただきました皆様に本稿をお借りして厚く御礼申し上げます。また50周年事業の実行委員の皆様の皆様のご苦労にも合わせて感謝申し上げます。

50周年からまた一つずつ100周年へと、母校の『筑紫ラグビー』の仲間たちが、充実した高校生活を過ごされ、さらに輝かしい歴史を築き上げられますことを切望してやみません。

令和6年9月





ご挨拶

創部50周年 筑紫ラグビー部が描く未来

福岡県立筑紫高校ラグビー部
監督 長木 裕

福岡県立筑紫高等学校創立2年目に創部されたラグビー部は、創部50周年を迎えることができました。これは偏に、地域や保護者の皆様、歴代の顧問の先生方、そして何より各界で活躍されているラグビー部OB・OGの変わらぬご支援の賜と心から感謝申し上げます。また、創部50周年という記念すべき年に監督を務めさせていただいていることに感謝申し上げます。

現在ラグビー部は、男子67名、女子18名、計85名の部員で活動しています。目標は「花園制覇」、目的は「人間的な成長＝人格形成」です。ラグビー部員である前に筑紫高校生として、また、一人の人間として、社会や世界で活躍するための人間的な成長を重んじています。この人間的な成長と、競技力の向上を目指す2軸、「ダブルゴール」は、筑紫ラグビー部の創部以来不変のスタイルです。この「筑紫ラグビーの中心軸」を基本にした指導は脈々と受け継がれ、現在も「筑紫魂」として全部員の心に宿っています。

節目となる今年度の福岡県高等学校ラグビーフットボール大会では、前半リードで折り返したものの、後半に逆転を許し、24対36で宿敵東福岡高校に準決勝で敗れました。敗れはしたものの、いつも試合会場で部員の背中を押してくれている「走れ！タックル！」の横断幕のとおり、最後まで筑紫らしく粘り強く戦い抜き、東福岡をあとう歩のところまで追い詰めることができました。この敗戦から部員たちは、『東福岡に勝って』花園に出場する』ことを再確認することができました。

現在は、夏の強化期間(菅平合宿等)を終え、福岡県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール選手権大会の優勝に向け練習に励んでいます。部長の木村先生をはじめとする多くのスタッフが部員を支えるなかで、部員たちは常に「今、

何が必要なのか？」を意識し、考えることで、日に日にチームはレベルアップしています。そして、創部50周年の記念すべきこの年に、必ずや12月に開催される全国大会(花園)出場を勝ち取ります。そのために、これまで本校ラグビー部に携わってこられた方々が築き上げた「筑紫魂」を胸に、「すべては生徒のために、すべての生徒のために」を合言葉に全力で取り組んで参ります。

今後も皆様の変わらぬご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。





ご挨拶

創部50周年に寄せて

福岡県立筑紫高校ラグビー部
第二代監督 城戸 英敏

私は昭和55年4月に筑紫高校に赴任してからの14年間、ラグビー部の指導に携わり、日々部員たちと共に汗を流してきました。

ラグビー部は創部当初より、初代監督の今村先生のご指導のもと、常に全国大会を目指し、すでに花園出場も果たしていました。

私の指導方針も一貫して変わらず、常に全国大会出場を目標に掲げ、“花園”という夢に向けてモチベーションを高め続けました。部員たちも高い志を持ち、練習に励むことで順調に力をつけていきました。

試合においては、奇策を用いて勝利を狙うことはせず、奇策であっても絶え間ない練習によって、それが正攻法となるまで練習を重ねました。常に「当たりまえのことに手を抜かず、当たり前になりこなす。出来ることは着実にやる」ことを徹底していました。まさに、「王道不易 点滴穿岩」であったと感じています。

厳しい練習に耐え、最後まで諦めずに努力したすべての部員各位に改めて敬意を表します。また、ラグビー部の活動にご理解・ご支援いただきました先生方や保護者の皆様方に心より感謝申し上げます。

現在、ご縁があり、ラグビー部のスタッフの一員として練習に参加させていただいております。具体的な指導は長木監督を中心にコーチの皆さんが熱心に行ってくれています。今の部員たちは私の教え子の子供たちの世代にあたり、私にとっては孫のような存在です。

ラグビーのゲーム内容・スキル・ルールは、昔と違い大きく変わりました。しかし、筑紫ラグビーの志は本質的に変わることなく、確実に前進していることを実感しています。

現在、県内の高校ラグビーの状況は厳しいものがあります

が、常に勝利を目指して努力する部員とともに、「勝負は強い者が勝つのではなく、勝った者が強い」という信念のもと、私も力の限り老骨に鞭打って頑張りたいと思います。

筑紫高校ラグビー部創部50周年、誠におめでとうございます。





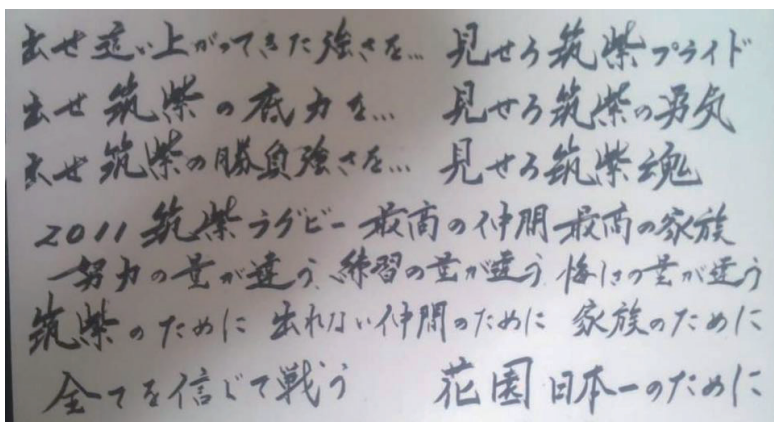
ご挨拶

ご挨拶に代えて(西村寛久第三代監督揮毫画像)

福岡県立筑紫高校ラグビー部

第三代監督 西村 寛久

1984年3月 筑紫高校卒業 9期生



ご挨拶

筑紫高校ラグビー部 創部50周年に寄せて

福岡県立筑紫高校ラグビー部

第四代監督 中村 英行

1991年3月 筑紫高校卒業 16期生

筑紫高校ラグビー部、創部50周年誠にありがとうございます。私自身もOBとして、心からお祝い申し上げるとともに、これまで支え続けていただきましたすべての方々へ感謝申し上げます。

初代の今村先生が創部され、私の恩師である城戸先生、そして西村先生の後、私はちょうど10年前の平成26年(2014年)4月に、西村先生の後任として就任しました。当時は筑紫VS東福岡の激戦が全国的にも知られていて、日本一になる東福岡を最も苦しめる存在として、歴代の先生方が筑紫高校ラグビー部を名実ともに高校ラグビー界の最高峰まで導いておられました。その後任としてはあまりに力不足の私でしたが、これまでのご指導によって積み上げられた伝統がゆるぎない礎となり、私の力量とは無関係に当時の生徒(40~45期生)が多くの実績を残してくれました。就任前から全国選抜大会に出場し、就任後はワールドユース大会、40周年記念行事としてのNZ研修、九州大会、7人制全国大会、そして第95回記念大会で九州ブロック代表として花園出場と、指導者として身に余るほどの経験をさせていただきました。その一番の要因は、城戸先生、西村先生、部長の木村先生、副顧問の鈴木先生、佐野先生、藤木先生の両コーチ、現監督である長木先生という指導体制が整えられ、さらには笹原整骨院のメディカルサポート、鴻上氏によるS.C.指導、OBによるスポットコーチ体制、保護者会の全面協力などの指導環境を整えていただいた賜物であることは言うまでもありません。

創部以来、輝かしい歴史を築きあげてこられた先生方の後を受け、さらなる発展のために粉骨碎身の努力をするべき立場にありながら、私の至らなさ故に指導者としての責任を全うすることができず、懺悔の念を抱かずにはいられませんが、こうして50周年の節目に、OBとして、前指導者としてこのような機会を与えていただきましたことに深く感謝し、今後はさらに筑紫高校ラグビー部を支えることを誓い、お祝いの辞とさせていただきます。

